
みらくる ガール

水谷 怜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みらくる ガール

【Nコード】

N5642D

【作者名】

水谷 怜

【あらすじ】

前田くるみ、十三歳。階段から落ちて不思議な経験をする。ちょっと不思議なタイムスリップ小説。

みらくる ガール

水谷 怜
みずたに れい

私、前田まえだくるみ。十三歳。

今日、大変なことが起きてしまいました。

私が覚えているのは、さっき、階段から落ちてしまったこと……。

「その御方、どうかなさりましたか？大丈夫ですか？」

変だ。こんな時代に御嬢サマ言葉なんて……。

ここは一体どこなの？

私は、ぱちっ と眼を開く。

そこには時代劇のような風景が広がっていた。

ここ、どこかの撮影現場かなあ。

「あの、お名前は？」

私に聞いているのかな。

和服で、いかにも昔 というイメージの御嬢様に見える。

「あ、えと、私は、前田くるみ。あなたは？今日はいつ？ここはどこ？」

この人は誰？

「私は、宮原恵理子。みやはらえりこ今日は、昭和三十年一月十二日。そしてここは、ゆうひ村」

「昭和三十年？ってことは平成二十年から五十年くらい前？」

「平成？へいせい平成って何です？」

恵理子は、平成を知らない様子。

「平成って言うのは、昭和の次の年からのです」

「へえ。あつ！私の年齢言ってますでしたね。私、十二歳です。ヒトツ 年下ですね」

そうなんだ。

「わたし、平成人なんです。階段から落ちたらここに居て」

「そうなんだ・・・」
「じゃあ、あなたが、平成の時代に帰ったら、私、六十五歳ぐらいなんだ。」

「なんだか寂しいな」

「そっか。ってあれ？」

「体が透けてる？」

「どうしよう、恵理子さん」

「大丈夫、大丈夫」

「現代に戻ったら探してみる！絶対！」

「うん」

私は気を失った。

ここは現代？

「くるみ！」

「くるみちゃん」

「前田さん」

「くるちゃん」

「みつちー」

ん・・・だれ？

恵理子さん？

「くるみ、大丈夫？」

「あつ！ここ現代？」

「当たり前よ」

「ねえ。宮原恵理子さんって知らない？」

「恵理子さん？おばあちゃんよ」

「！ねえ、恵理子さん、どこにいる？」

「呼んだかえ？」

「恵理子さん？」

「そっだよ。くるみちゃん」

「また会えた」

恵理子さんて、私のおばあちゃんだったんだ・・・。

これからも、あの時のこと、一杯話そうね。恵理子サン。

おわり。

（後書き）

楽しんでもらえましたか？

この作品は、初の時空モノだったので、
ちよつと、自信がありませんでした。

ちよつとした工夫をした小説家2年目、今年初の小説です。

水谷 怜

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5642d/>

みらくる ガール

2011年1月16日06時26分発行